

新 政 議 会 報 告 2024 春



Itahashi
板橋 睦
8期



Gunji
軍司 俊紀
6期



Kanamaru
金丸 和史
7期

浦部在任

西の原在任

小倉台在任

「豊かな教育環境」を守れるのか？

12月19日(火)、令和5年第4回定例市議会は市議会に付託された、市長提案の全ての議案を可決し、終了しました。

補正予算審議では、スクールバス運行業務委託が可決されました。小学校へ距離がある、以下の2つの地域からの通学に対して、新規にスクールバスの運行を行うという手段での課題解決に向けたアプローチとなります。

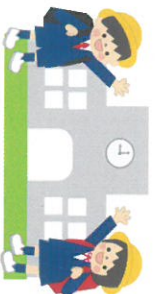
- ①宗甫、平岡、竹袋地区⇒木下小学校へ
- ②鹿黒南、鹿黒地区⇒大森小学校

なお、附帯決議として、以下の意見が付されました。

- 1.通学時における子供たちの安全確保を図る観点から、全市的なスクールバスの運行についても、引き続き検討を進めること。
- 2.スクールバスの運行に当たっては、保護者からの学区外就学に関する相談にも真摯に対応し、子供たちの豊かな教育環境を第一に考え、適切な判断を行うこと。
- 3.近年の住宅開発の状況等も踏まえ、通学区域指定の見直しの要否について、通学区域審議会への諮問等を通じて十分に審議・検討を行うこと。

学区外就学を認めるのか？

附帯決議の背景として、「学区外への就学を認めるか？」という課題があり、「それぞれの家庭の事情に応じて教育委員会に相談し、教育委員会で検討して、就学を認めている。」現状があります。今回の附帯決議には書かれていませんが、宗甫地区の新興住宅地から学区外の牧の原小学校へ行きたい、滝野小学校でもいいのでは？という要望があります。



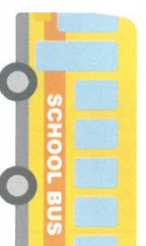
一般質問の議会中継は以下のQRコードからご覧になれます。

保護者の要望に応じて、学区外就学を認めることは大変良いことのように思えますが、**実際は、牧の原小学校、滝野小学校のどちらも教室数に余裕がありません。**校舎を増築するとしても、学区外就学を認めることよって教育環境の悪化につながることも懸念されます。**増築、増築を重ね、保護者から批判を受けている「原小学校」の問題も記憶に新しいところです。**そうなると、附帯決議で謳われている「豊かな教育環境」を壊すことにはならないか？という点を指摘し、「新政」は付帯決議に反対しました。

そもそも宗甫地区は、市街化調整区域として、新規住宅建設時に、学区は「木下小学校」と周知され、住宅購入者にも説明があったはずですが、そして、今後も開発がすすむことから(R6.1時点の合計で170戸。さらに増える見込)、スクールバスの運行が補正予算として全会一致で議決されました。通学区域をないがしろにして、「牧の原小学校」への通学を希望する理由は何でしょうか？単に「牧の原小学校」が近いということだけでしょうか？

なお、鹿黒南地区でも学区外就学となる原山小学校に通いたいという要望がありますが、原山小学校に教室数に余裕があることから、「問題なし」と「新政」では判断しています。

結果としては、附帯決議に反対したのは、会派「新政」の他1名だけで、附帯決議は可決となりました。「新政」は、今後真の意味での「豊かな教育環境の実現」に向けて力を尽くしていきます。



板橋睦 (8期) 元議長
 予算審査常任委員会委員・文教福祉常任委員会委員・議会運営委員会委員・消防組合議会副議長・議会だより編集委員会委員



軍司俊紀 (6期)
 予算審査常任委員会委員・文教福祉常任委員会委員・議会運営委員会委員・環境整備事業組合議会議員



金丸和史 (7期) 元議長
 建設経済常任委員会委員・干草尾後期高齢者医療広域連合議会議員・議会基本条例制定特別委員会 委員長

